

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 農場等バイオセキュリティ向上総合対策事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫指導係 電話番号：058-272-1111(内 2886)

E-mail：c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,723 千円 (前年度予算額：0 千円)

R2.9 補 39,946 千円

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	10,723	10,723	0	0	0	0	0	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

豚については、豚熱(CSF)やアフリカ豚熱(ASF)への備えを行うために、養豚場における対策を強化する必要がある。

一方、豚以外の畜種についても、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザといった家畜伝染病の脅威に対し、国による飼養衛生管理基準が強化され、より高いレベルの衛生管理を行うことが必要となっている。

そこで、牛・豚・鶏を中心に全畜種の農場について、飼養衛生管理基準を遵守し、または向上させるための資機材等整備を行うことにより、農場へのウイルス侵入防止を図り、家畜伝染病に強い産地づくりを目指す。

(2) 事業内容

家畜伝染病の発生抑制に向け、農家が飼養衛生管理基準を遵守し、または向上させるための施設等整備を行う場合に補助金を交付することにより、農場へのウイルス侵入防止を図り、以て農家の経営を支援する。

補助率：事業費の1/2以内

事業主体：市町村、農業協同組合、生産者の組織する団体等

事業内容：動力噴霧器の整備、防鳥ネットの設置、家畜の死体等を保管するための保冷库の設置等

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・国 10/10（消費・安全対策交付金）

(4) 類似事業の有無

- ・無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	10,723	農家に取り組む家畜伝染病に備えた農場の施設整備に係る助成
合計	10,723	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略（R1～5）
 - 2 健やかで安らかな地域づくり
 - (2)安らかに暮らせる地域
 - ④災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- ・新「ぎふ農業・農村基本計画」（R3～7）
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ④家畜伝染病に対応できる畜産産地づくり

(2) 国・他県の状況

- ・全国で同様の施設整備を実施

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
農場の施設等整備を支援し、早期に施設整備を完了することで、これらの農家の飼養衛生管理基準の遵守及び向上につなげることにより、畜産業の安定経営を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

飼養を継続している農家、経営再開に向け準備を進めている農家など、各農家の経営状況が異なるため、統一的な指標を示すことはできない。

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・令和2年度実績（見込）
 - ・実施農場数：県内10農場（豚）
 - ・補助対象事業費：87,864千円、補助金交付額：39,946千円
 - ・実施内容：動力噴霧器の整備、防鳥ネット、保冷库、焼却炉の設置など

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
事業を実施した農場では、家畜伝染病の発生予防対策レベルが向上し、家畜がウイルスに感染するリスクが低減され、畜産業の安定経営が見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	改正された飼養衛生管理基準が令和2年7月に施行（施設整備に係る改正は令和3年10月施行）されたことから、事業者の基準の遵守・向上に向けた施設等整備を支援する本事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	事業を実施した農場では、飼養衛生管理基準の遵守及び向上が図られ、家畜伝染病のウイルス感染リスクの軽減につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	あらかじめ家畜保健衛生所による農場チェックを行い、施設の改善すべき箇所を助言するなど、より適切に事業が実施されるよう事業の効率化を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 家畜伝染病のウイルスの農場への侵入は、今後も警戒の必要があり、侵入防止対策を強化、継続していく必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 畜産農家の経営持続のためには、施設整備による家畜伝染病発生防止対策が必要であり、今後も継続して安定的な経営が行われるよう、支援が必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	